

会報

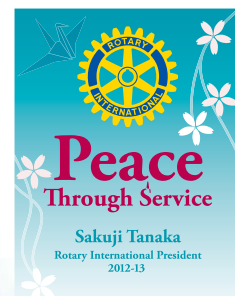
過去に学び
次世代への継承

2012~2013年度 会長 黒島 一生

第2705回 4月9日(火)

2012~2013

奉仕を通じて平和を
心・家族・地域・世界に平和の恩恵を



本日のプログラム

「徳川家歴代将軍のウソ・ホント！」

南部 知正 会員

次週のプログラム 4月20日(土)

「国際ロータリーインターシティーミーティング」

於 ロワジュールホテル

- 例会場/ホテル函館ロイヤル TEL (0138) 26-8181 (代)
- 例会日/毎週火曜日 12:30~13:30
- 事務所/ニチロビル4F TEL (0138) 23-3870 FAX (0138) 22-2251
- 会長/黒島一生 ● 副会長/戸嶋浩 ● 会長エレクト/池垣信一
- 幹事/佐藤真一 ● 副幹事/五十嵐正
- 友好クラブ/青森東ロータリークラブ・長崎東ロータリークラブ

第2704回例会 2013年4月2日(火)天候 晴

月間テーマ 雑誌月間

■ロータリーソング 奉仕の理想

■司会 黒島 一生 会長

■ゲスト

海上自衛隊函館基地隊司令 1等海佐 五島 浩司 氏
工藤 修 氏

■今月の誕生日

1日 佐藤雄喜会員、5日 田中賢司会員、
13日 石畑弘樹会員、26日 池垣信一会員、新保会
員、渡辺正道会員、29日 吉田昇会員

■今月の結婚日

10日 山谷会員、11日 吉田昇会員、
24日 小林会員、30日 長谷川会員

■幹事報告

- 1、第4四半期会費のご案内をいたしました。今月
末までにお払い込みください。
- 2、2013-2014年度合同名簿の作成の為再度今年度
名簿を回覧いたしますので、校正願います。
- 3、例会終了後理事会を開催いたします。

「ソマリア沖・アデン湾の護衛活動」

海上自衛隊函館基地隊司令
1等海佐 五島 浩司 氏



はじめに

第8護衛隊司令を拝命していたある日、「ソマリアの第1次隊として行ってもらうことになりそうだ」との軍司令の言葉を聞いて、それまでの約30年間の勤務では味わったことのない身が引き締まる思いを感じたことを未だ鮮明に覚えている。海上自衛隊創設以来、初めて人に向けた射撃を命ずる可能性があることが大きな理由になったことは言うまでもない。加えて、敵は海賊という「非対象」、また、現場近傍には商船、民間人が存在するという極めて制約の多いオペレーションであることを考えれば、既に海上自衛隊が有する能力やノウハウに多少のアレンジを加える程度の対応では済まされないことは明白で

あった。私がどのようにこの任務を捉え、何を準備し、どう対応したか、オペレーションの切り口でのいくつかの焦点に絞り述べることにする。

1. 派遣準備

海上自衛隊が初めて「海賊」という敵に対峙する上で、まず情報収集に取り組んだ。しかし、現場アデン湾の環境(気象・海象)、使用する港湾、ソマリアの海賊の使用する船、武器、乗っ取りの手法、拠点などに関する断片的な情報を入手するにつれ、この任務の深刻な状況が徐々に見えてきた。(中略)必要と考えられる人や物は数多く、必要な訓練も山ほどあったが、優先順序を考慮しつつ、「作戦計画、護衛要領の確立」「人的・物的補強」及び「国交省、船主協会等との諸調整」を3本柱として準備作業を進めていった。

- (1) 作戦計画・護衛要領の確立 (中略)
- (2) 人的・物的補強 (中略)
- (3) 国交省・船主協会等との諸調整 (中略)

2. 現場進出

出国までは装備工事との兼ね合いから、事前訓練に没頭することができなかったため、現場進出の約2週間は、個々の射撃訓練から、部隊としての総合訓練に至るまで、昼夜を問わず寸暇を惜しんで訓練した。(中略)

3. 護衛活動

アデン湾にはIRTC(Internationally Recommended Traffic Corridor)という約900kmの推奨航路が設定されている。我々の任務は、このIRTCで船団を組んだ商船等を護衛することであった。(中略)

この任務については、当初私は派遣準備と現場進出までの検証・訓練が90%を占める程重要だと考えていた。現場に到着し護衛を開始すれば、多少の修正は必要となっても、概ね計画通りに実施できるとの私の考えは甘かった。常に何らかの「変化」に対する対応に追われる日々であった。その1つは夜間襲撃だった。出国前の情報では海賊は昼間のみに襲撃していた。しかし我々が現場に到着する前に、夜間襲撃の事案が生起し、夜間の警戒要領、見張り要領、HSの待機区分等の見直し及びナイトビジョン

ゴースト等、IR関連機器の追加要望をすることとした。(中略)

我々1次隊の活動根拠は「海上における警備行動」で護衛対象船舶は日本関係船舶に限られ、41回の護衛で合計121隻(平均1回当たり3隻)の船舶を護衛した。しかし、現場では護衛対象船舶になり得ない船舶が直接我々に護衛を依頼してくる。護衛計画は公表されているので、護衛開始時刻に合わせて多くの船舶が護衛開始地点に集まってくる。護衛対象として認定されないことは承知の上での要請である。何も言わずに我々の後方を続行する船舶もある。我々の護衛対象になるか否かは問題ではなく、危険海域を我々の近傍で一緒に航行することに意味がある。我々は護衛対象船舶になり得なくとも、依頼してきた船舶に対して、護衛対象にはできない旨を通報した上で、「安全ですから我々と一緒に行きましょう」と同じ船列に入り、同一通信に入系することを勧めた。これによって、船列は長くなり、護衛の難度は高まる結果となったが、我々1次隊が派遣される以前は、日本関係船舶は何れかの海軍に守られながらこの危険海域を航行したのである。船乗りである限り、そのようにせざるを得なかったというより、そのようにしたかった。

また、毎年7月からは南西のモンスーンが吹くため、海面は荒れてくる。従って、特にIRTCの東側、アラビア海は大しけとなり、時に波浪は7mにも達する。(中略)我々は各船舶との情報交換を密にして、各船舶の許容範囲の中で最適に船団を2分化し、それぞれを護衛艦1艦と搭載HSにより護衛する分割護衛を実施した。他にも護衛を実施している海軍はあるが、遅れてくる船舶を待つことはしていない。これは、日本人らしい繊細で親身な対応と各国船舶から好評を得、リピーターが増える結果と

なった。

4. おわりに

私は船務幹部として水上艦艇勤務を中心に勤務したが、時には航空自衛隊で要撃管制を、米海軍からイージスシステムを学び、弾道ミサイルに係わる調査分析業務にも携わった。様々な経験をさせて頂いたことを心から感謝している。しかし、この海賊対処任務を通じて、あらためて「船務」の原点というべきものを感じることができた。一見、単純でアナログの世界と思うかもしれないが、一瞬たりとも集中力を欠かすことは許されない、緊張の連続の5カ月だった。敵にとっては、100回襲撃して99回失敗しても1度成功すれば「勝ち」なのである。敵には守るべきルールもないし、昨日までと同じ手口を使うとは限らない。襲撃の主導権は常に敵にある。小さな変化を決して見逃すことなく、これに柔軟に対応していくことが求められる。変化を見逃さないためには、アンテナを高くすること、まさに「船務」の御家芸なのである。前任務部隊の申し継ぎを鵜呑みにし、海賊対処作戦がパターン化し、部隊に僅かでもマンネリ感が漂うことになれば、これまでの積み上げは一瞬で崩れてしまう。我々には、たった一度の失敗も許されない。野球で言うならば、海賊に1点でも献上すればゲームセット。こちらは何度海賊行為を阻止しても得点は入らない。エンドレスの完封リレーが求められるのである。「海自の護衛する船団襲撃される！」・・・間違っても、そんなニュースだけは聞きたくない。日本の国益に大きな意味を持つこの任務は、ソマリアの情勢を考えれば、数年で終結するようなものではないだろう。将来、後輩が本書を手にする時にも、完封リレーが継続していることを心から信じたい。

■ニコニコボックス

黒島会長、佐藤真一幹事、吉川会員、山谷会員 海上自衛隊函館基地隊司令1等海佐 五島様、本日は宜しくお願い致します。

戸嶋会員 月始めです。

吉田昇会員 誕生月と結婚月です。

松山会員 春ですね。

石畑弘樹会員 誕生月です。

五十嵐正会員 結婚記念日のお花ありがとうございます。

長谷川浩之会員 新年度が始まりました。宜しくお願いします。

原会員 ロータリーの友、読んで下さい。

安保会員 ニコニコボックスご協力お願いします。

國谷会員 親睦活動委員会のみな様、いつもご苦労様です。

宮崎裕之会員 五島司令 卓話宜しくお願い致します。

佐藤雄喜会員 誕生月です。五島司令 卓話宜しくお願い致します。

宮崎あけみ会員、新保会員、池垣信一会員、明本会員、森元会員、時田会員、吉村会員、今井会員、佐藤美子会員、松井会員、南部会員、渋谷会員、平井会員、宮崎徳三郎会員、安田真也会員、小野会員 月始めです。

■広告料 くにや司法書士法人 國谷大輔会員

■出席報告

・4月2日(火) 47名中出席34名(免除1名)

・3月19日(火) 出席率80.85%

市内他クラブ プログラム

4月10日(水) 函館北RC 会員 卓話

4月11日(木) 函館RC

「桜守50年道南の桜を思う」 浅利 政俊氏

4月12日(金) 函館五稜郭RC

「津波と地震に纏わる話」 岡田 恒男 会員

4月15日(月) 函館亀田RC 地区協議会報告

◆テレフォンサービス 26-3170◆

協同組合函館労務協会

黒島 一生 会員

新川町21-5 電話 26-3165

(有)フォトスタジオ嵯峨

松井 久男 会員

富岡町3丁目27-15 電話 45-1276